

卒業論文中間発表

11月20日 E060413

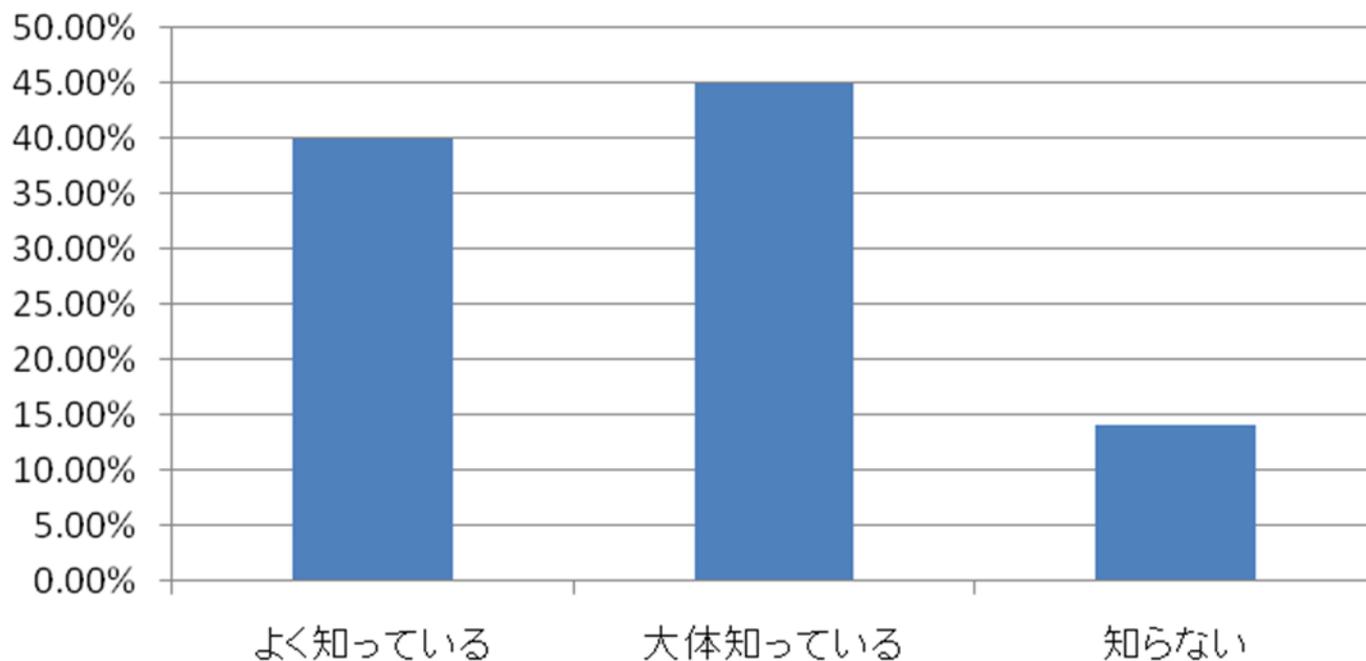
藤井 * *

テーマ

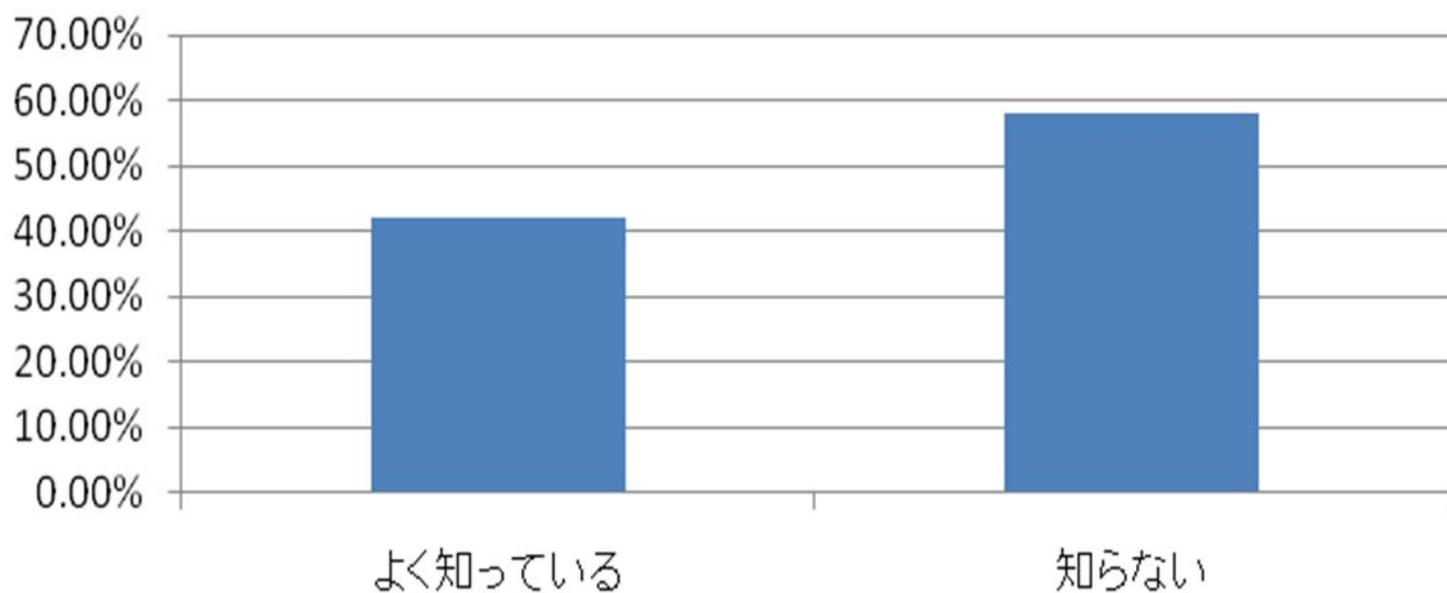
- ❁ 地球温暖化について、日本人自らが行動するようになるにはどうしたらいいか？
- ❁ まず、日本人が地球温暖化に対して、どのような意識をもっているか調査

地球温暖化に対する意識

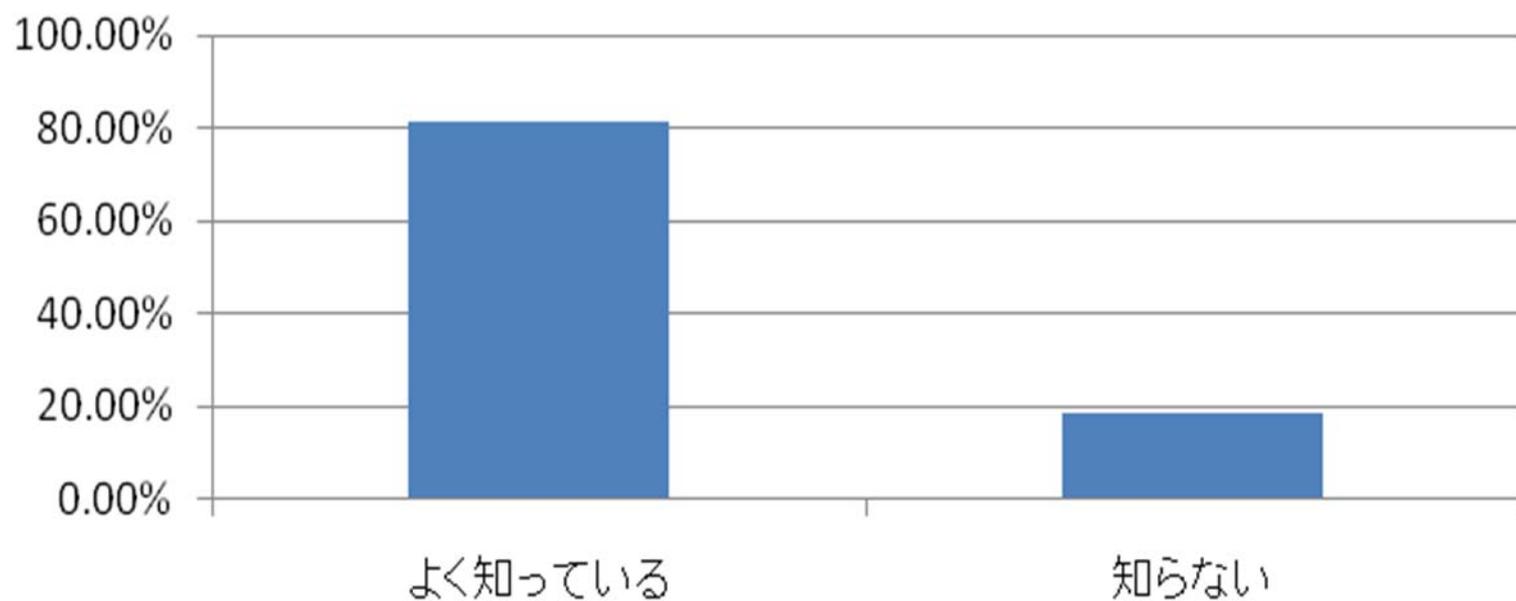
地球温暖化の原因を知っているか



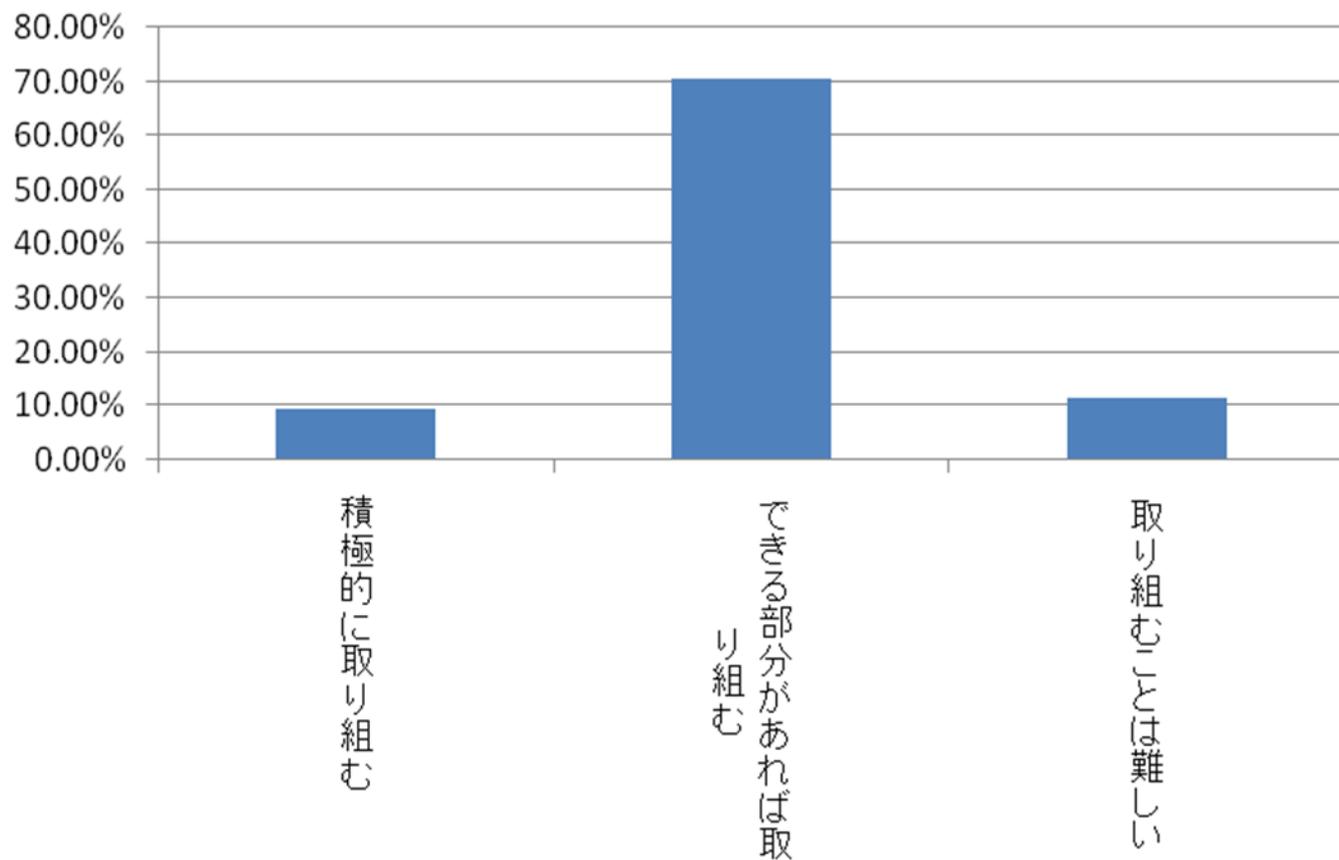
1990年度に比べ、日本の温室効果ガスの排出量が10%以上増加しているのを知っているか



自らが省エネルギーを行うことによって地球温暖化の防止に貢献できると いうことを知っているか



地球温暖化防止のため、個人の日常生活における取り組みについて、どのように考えるか

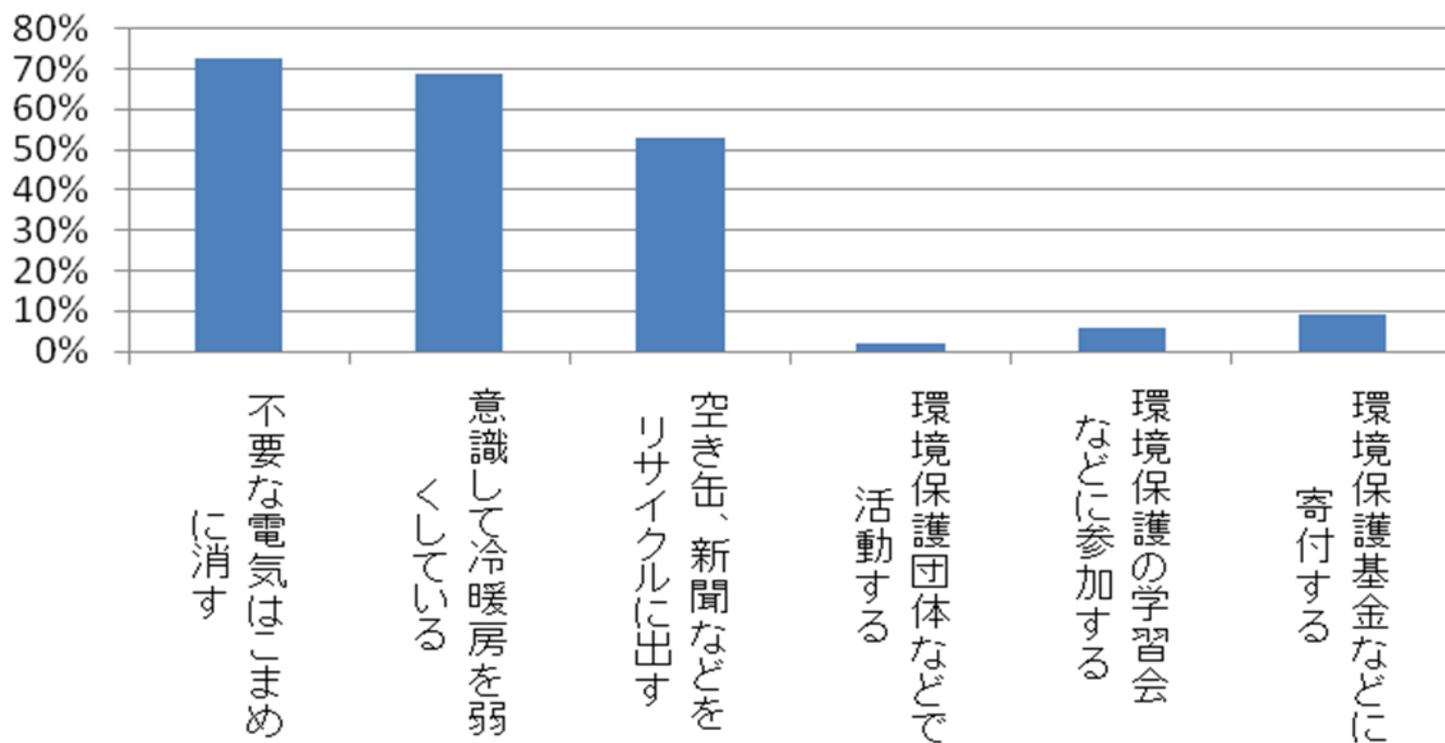


地球温暖化意識

- ❁ 日本人の関心は非常に高い
- ❁ 次に、地球温暖化に対してどんな行動をとっているかを検証

地球温暖化のために行っていること

温暖化のために行っていること



地球温暖化のために行っていること2

- ❁ 日本人の行動は、省エネ、省資源型の行動の比率が高い
- ❁ 対して、積極的な環境活動への参加というものは低い状態にある

日本と世界の国との比較

- ❁ 日本の意識や行動は、世界的にみるとどのような違いがあるのかを検証する
- ❁ 世界的な都市の8カ国でのアンケート
東京、ニューヨーク、パリ、ミラノ、ロンドン、モスクワ、フランクフルト、トロント

	8都市平均	東京
ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出す	84.10%	96.00%
人のいない部屋や場所の照明をこまめに消す	95.10%	92.60%
古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわす	82.00%	90.80%
洗いもの、歯磨きなどの時に、水を無駄使いしないように、水道をこまめに止める	87.80%	86.40%
暖房を使用する時は、暖めすぎない暖房温度（20度程度）に設定する	80.80%	86.40%
外出の際には、自家用車やタクシーを使わず、徒歩、自転車や電車、バス等の公共交通機関などを利用する	76.60%	82.60%

シャワーはこまめに止め、浴びる時間を短くする	84.50%	78.60%
家電製品などを購入する際には、省エネ効果の高い製品を選ぶ	84.10%	76.60%
買い物の時、買い物袋を持参し、レジ袋や包装を断る	67.80%	70.60%
電気製品を使わない時は、コンセントからプラグを抜く	71.20%	59.40%
不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわす	62.30%	55.40%
水筒やマグカップを持ち歩き、ペットボトルや紙コップを使用しない	49.10%	44.60%

書籍やイベント、インターネットなどで、地球温暖化や環境保護の活動について学習する	50.20%	31.80%
森林を保全、整備、植林するための活動に参加する	23.80%	12.60%
地域の緑化活動に参加する	23.30%	12.40%
太陽光、風力、バイオマスなどクリーンなエネルギーを使用する	18.40%	11.60%
地球環境保護のためのボランティア活動に参加する	17.50%	8.20%
自分が日常生活で排出している二酸化炭素の量を測定する	11.20%	6.00%
自分が排出した二酸化炭素を埋め合わせるための募金 (カーボンオフセット) をする	9.60%	6.00%

日本と世界との国際比較2

- ❁ 結果から8都市平均を上回ったのが5項目で、残りの9項目は平均値を下回っている
- ❁ 省エネや、リサイクルには水準が高いが、やはり植林活動や自己学習などの積極的な行動は平均値を大きく下回っている

日本と世界との国際比較3

- ❁ 今度は、環境意識や知識の面でも比較してみる
- ❁ 日本人は、環境への危機感が高いが、地球温暖化のために今の便利な生活を犠牲にしたくないと考えている

	8都市平均	東京
「地球温暖化防止のために自分がいつ、どこで、どのように行動すべきか」を理解している。	73.20%	56.20%
「地球環境に配慮した行動」が日常的な習慣になっている。	77.40%	58.40%（最下位）
地球温暖化防止のために、現在の便利な生活を犠牲にしたくない。	29.70%	41.60%（最下位）
「地球環境に配慮した生活」が快適である	77.40%	57.20%
自分の毎日の生活が地球環境にどのような影響を与えているか理解している。	78.60%	60.80%

原因と問題点

- ❁ 環境意識が高いのにもかかわらず、行動が伴わないのはなぜか？
- ❁ 環境先進国と呼ばれる国々では、環境意識の高まりを活かすような政策や仕組みづくりがある

海外の先進的な事例の紹介

- ❁ 海外での先進的な取り組みがどのようなものがあるかを検証してみる
- ❁ 後に、日本での事例も調べて海外のものと比較し日本には何が必要か、何ができるのかを検証したい

イギリス、ニューカッスル

- ❁ カーボンオフセットの仕組みづくり
- ❁ 排出量を測定でき、カードで支払うことができるウェブサイトを整備
- ❁ 集まった資金で住宅断熱、暖房工事事業を推進

イギリス、省エネ住宅の情報仲介センター

- ❁ 市民は、省エネ住宅の適正価格や省エネ方法がわからない
- ❁ そのため、一般家庭が簡単に情報や相談をできる情報仲介センターを設置した
- ❁ 34300トンのCO2削減

ポルトガル、アルマダ

- ❁ 車を使わない日キャンペーンの実施
- ❁ 登録者は様々な得点がある
- ❁ 人の移動のあり方について考えさせられる機会が増え、議論を巻き起こす

イタリア、モデナ

- ❁ 環境教育に力を入れている

- ❁ ジョバンニXXⅢ小学校

英語の時間に環境問題を題材としたテキストを用いる等

- ❁ パロツツツィ高校

環境イベントに参加、企業の省エネ可能性の調査等

ドイツ、フィルンハイム

❁ 温室に入ったカラーボール

→子供を通じて大人にも環境の意識を

活動に参加した人々が、年に1回地球温暖化をテーマにしたフェスティバルを開催

ドイツ、ハンノーバー

❁ 電力供給体制の自由化

→ 選択肢を設けることによって、エコに関心のある人は、従来より価格は高いが再生可能なエネルギーを選択できる

オーストラリア、ダービン

- ❁ 徒歩や自転車、公共交通機関利用の促進
- ❁ 参加を募り、興味のある人に対してはアドバイスを送る
- ❁ 過去の例では、車の利用が15%減少した